<人>車　道路

3月の安全運転のポイント　平成25年3月号

警察庁の発表によると、平成24年の交通事故による死者数は4,411人で、12年連続の減少となるとともに、発生件数および負傷者数も８年連続で減少しました。そこで平成24年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。（資料は、警察庁「平成24年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」による）

平成24年の交通事故発生状況			
	発生件数*	665,138件	（前年比－26,918件　－3.9%）
	死者数*	4,411人	（前年比　－252人　－5.4%）
	負傷者数	825,396人	（前年比－29,214人　－3.4%）

＊発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。
＊死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。

全体に占める65歳以上高齢者の死者数の割合が過去最高に

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が2,264人で（図１）、全体の51.3%を占め、過去最高となりました。

また、65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が1,109人（49.0%）、自動車乗車中が591人（26.1%）、自転車乗用中が364人（16.1%）となっています（図２）。歩行中と自転車乗用中は前年より減少していますが、自動車乗車中は増加しています。歩行中の高齢者だけでなく、高齢運転者標識を付けた車にも十分に目を配りましょう。

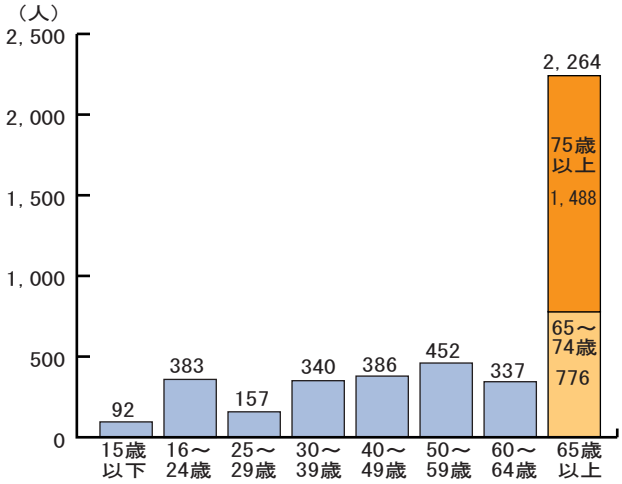

図１　年齢層別死者数（平成24年）

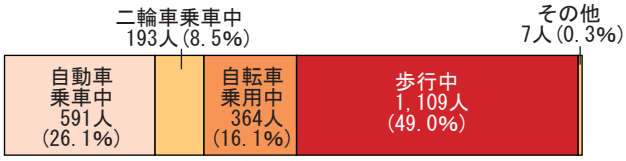

図２　65歳以上の状態別死者数（平成24年）

車両相互事故では出会い頭事故が最も多い

死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が1,790件（41.8%）、人対車両が1,567件（36.6%）、車両単独が878件（20.5%）となっています（図３）。

車両相互では出会い頭衝突が630件と最も多く、次いで正面衝突416件、右折時衝突261件の順となっています。見通しの悪い交差点では一時停止による安全確認を確実に行う、単路走行時はセンターラインを絶対にはみ出さない、右折時は対向車を確認するなどの安全運転の基本をしっかり守りましょう。

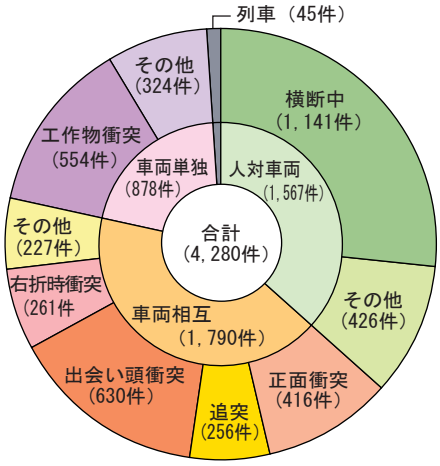

図３　事故類型別死亡事故件数（平成24年）

MS&AD　三井住友海上

死亡事故の半数近くは「交差点とその付近」で発生

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,587件（37.1%）、交差点付近が507件（11.8%）を占め、交差点内と交差点付近を合わせると48.9%となり、死亡事故の半数近くが交差点内とその付近で発生しています（図４）。

交差点では、他車や自転車、歩行者の動きに十分注意して、慎重な運転を心がけましょう。

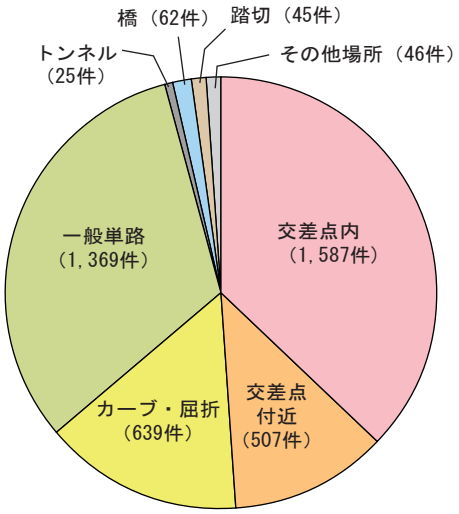

図４　道路形状別死亡事故件数（平成24年）

「漫然運転」と「脇見運転」による死亡事故が３分の１を占める

原付以上運転者が第１当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、「漫然運転」が692件（17.7%）で最も多く、次いで「脇見運転」569件（14.6%）となっており、両者でほぼ３分の１を占めています（図５）。

運転中に考え事をしたり脇見をすると、周囲に対する注意力が薄れ、危険を見落としたり発見が遅れてしまいます。運転中は決して気を緩めることなく運転に集中し、周囲の状況によく目を配って走行しましょう。

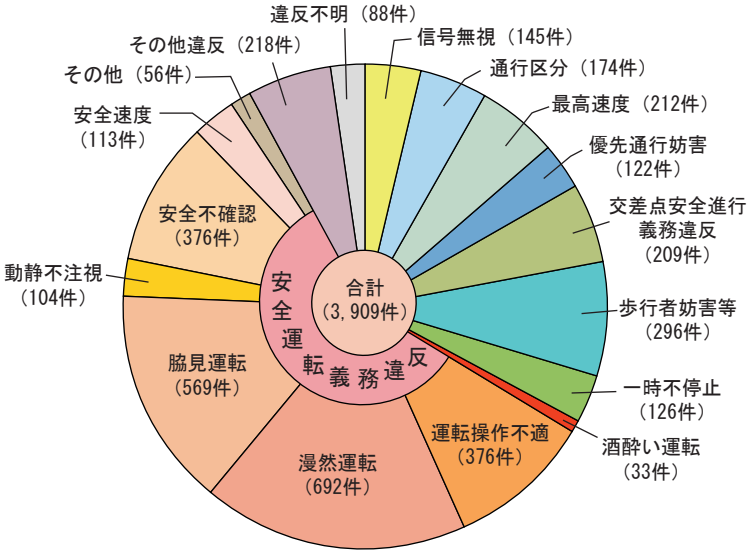

図５　原付以上運転者（第１当事者）の法令違反別死亡事故件数（平成24年）

死亡事故件数・死者数とも昼間より夜間のほうが多い

死亡事故件数を昼夜別にみると、昼間が2,069件（48.3%）、夜間は2,211件（51.7%）と夜間が昼間を上回り、死者数についても、昼間が2,147人（48.7%）、夜間は2,264人（51.3%）と夜間が上回っています（図６）。

夜間は昼間よりも視界が悪く、危険の発見が遅れやすくなりますから、スピードを控えめにするとともに、車間距離を十分にとって走行しましょう。

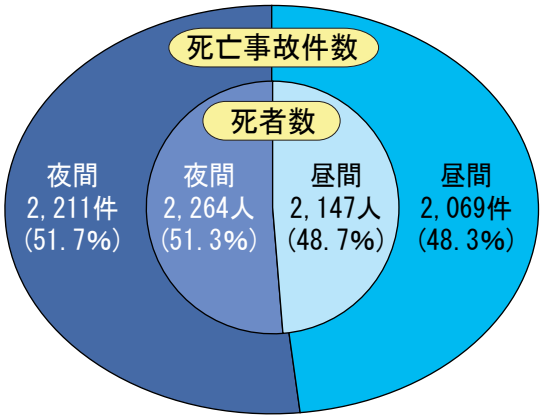

図６　昼夜別死者数と死亡事故件数（平成24年）

「ご相談・お申込先」

【取扱代理店】株式会社コスモほけんサービス
【　住　所　】岩手県九戸郡軽米町軽米8-79-2　TEL：0195-46-4023
岩手県二戸市福岡字下町8　TEL：0195-43-3733

〔制作〕株式会社インターリスク総研　開発グループ